

令和 3 年 6 月 24 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02689

研究課題名(和文)「持続可能な社会」に向けての社会科・理科のグローバルな融合カリキュラムの開発

研究課題名(英文) Development of a global integrated curriculum of social science and science for a sustainable society

研究代表者

井田 仁康 (Ida, Yoshiyasu)

筑波大学・人間系・教授

研究者番号：20203086

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、世界のカリキュラムの潮流や実践研究、海外共同調査を通して、社会科、地理歴史科、公民科、理科、そして融合的なカリキュラムの開発について分析を進めてきた。その結果、グローバルで融合的なカリキュラムの開発の観点は次の2点にまとめられた。第1は、学習プロセスを明確にし、学習内容と思考力などの能力のバランスを図ることである。第2は、学習内容を学年をおってスパイラルに示し、教科間の枠をこえて、知識やスキルを活用できるようにすることである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、2021年3月に書籍として出版し、研究者、教員をはじめとする社会一般で共有できるようにした。学術的意義としては特定の課題について、融合的な新科目をつくるべきという見解や教科間の連携でカリキュラムを調整すべきとの見解があるなかで、どのようなカリキュラムが望ましいのかといったことに示唆が与えられた。社会的意義としては、学校教育においての教科融合的なカリキュラムの作成について方向性を示せたことがあげられる。

研究成果の概要(英文)：This research has analyzed curricula of Social Studies, Geography and History, Civics, Science, and integrated subject through global trends, practical research and fieldwork. The perspectives of developing a global and integrated curriculum are summarized in the following two points. The first is to clarify the learning process and balance the learning content with abilities such as thinking ability. The second is to show the learning content in a spiral over the grades because knowledge and skills can be utilized beyond the boundaries between subjects.

研究分野：教育学

キーワード：持続可能な社会 社会科・理科 地理・歴史・公民 カリキュラム開発 ネットワーク

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

日本の提案により「ESD(Education for Sustainable Development)」が2002年の国連総会において決議され、2005年から2014年の10年間で「ESDの10年」となり、世界各地でESDが推進された。この10年間でESDの成果が数多く発表された。「ESDの10年」は、2014年に終了し、2014年11月には岡山市と名古屋市で「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」が開かれ、世界各国からESD実践者が集まった。「ESDの10年」が終了したことで、ESDが終了したわけではなく、ESDの今後の重要性が再確認されている。今後さらなる研究が必要であることが確認された。ESDの目標には、現象の背景の理解、体系的な思考力の育成、批判力を重視した思考力の育成、データや情報を分析する能力の育成、コミュニケーション能力、持続可能な社会のための価値観を養うことがあげられている。また、井田(2015)によれば、内容としては、貧困撲滅、環境保全、地球温暖化、エネルギー削減、人口変動などがあげられ、方法としては参加型学習である。このような目標が日本のみならず、世界の教育に影響を与えた。特に、日本の社会科教育においては、現代社会の理解にとどまりがちの中、未来を志向する教育観がESDにより示されたことにより、学校教育においても未来を志向する社会科教育が定着してきた。

しかし、日本の社会科教育では、地理、歴史、公民の接合がESDに関してうまく連携していないという課題があったので、平成25年度から平成28年度まで「地理、歴史、公民を関連させた社会科としてのESDの実践の構築と発信に関する研究」として、基盤研究(B)の補助金をいただき、研究を進めてきた。社会科とESDについての論稿および実践は、社会科特に地理の分野で進められてきた。中山・和田・湯浅(2011)は、その集大成といえるだろう。一方、歴史や公民を踏まえた社会科という枠組みでは、井田(2011)の論稿はあるが、きっちりとまとめられてはいない。そこで、地理のみならず、歴史、公民をも含めた社会科で、ESDを実践するプロジェクトを立ち上げようと考え研究を進めたものである。そこでの研究は、日本国内だけでなく、2014年10月に「アジアにおけるESDと地理教育」と題して、韓国、台湾、シンガポールから3人の地理教育学者、地理教育に造詣の深い地理学者を招き、国際シンポジウムを開催した。2015年11月には「欧米におけるESDと地理教育」と題した国際シンポジウムでは、イギリス、フィンランド、アメリカの世界的に活躍されている地理教育学者3人を招いて、各国のESDの状況について情報交換や意見交換を行った。そこでの課題は、ESDあるいは持続可能な社会へ向けての教育は、各国それぞれ行われているが、グローバルな課題を扱いながら、教育としてのグローバルな共同体制ができていないことが明らかになった。

他方、持続可能な社会のための科学と技術を駆使しようとするフューチャー・アースのプロジェクトも始まっている。2013年に、ダイナミックな地球の理解、地球規模の開発、持続可能な地球社会への転換を研究計画として掲げたフューチャー・アースは、2015年にはプログラムとして共同研究が始まる。分野を越えた連携、ステークホルダーとの連携を強調し、関連する学問、人々を結び付けて持続可能な社会を作り上げようとしている。学問分野をこえたグローバルな観点から地球の将来について考え、課題を解決しとていく考え方は、ESDでも同様であり、教育にも期待されるものが大きい。具体的に教育として何ができるかという研究は遅れている。そのため、世界が共同できるようなグローバルな教育カリキュラムの開発が求められているのである。

さらに、教科教育の研究として、初等教育では総合的な学習の研究は多く行われるが、専門性の高くなる中等教育での教科・科目をこえたカリキュラムの開発は多くない。学問の壁が背後にあることも大きい。地球的な課題は、学問の壁をこえた共通の課題となっている。フューチャー・アースのプロジェクトも学問の壁をこえて協力していくことがうたわれている。「持続可能な社会」へ向けての教育も、教科・科目間の壁をこえる必要がある。本研究では、もっとも関連の深いと考えられる地理、歴史、公民といった社会科系科目と理科とくに環境に関わる分野との総合をめざしたカリキュラムの開発とする。個別の教科・科目の知識や見方・考え方も必要とされるが、それを保証しながら総合的なカリキュラムを作成することは、地球的課題を教育で考えていくには重要な観点となる。

2. 研究の目的

本研究は、「持続可能な社会」を目標とした、海外での具体的な地球的課題について、海外との共同研究をふまえて、中等教育社会科・地理歴史科・公民科・理科および融合科目での世界に発信できるカリキュラムを開発することにある。地球規模での課題が山積みされている中、教育においてもそのような課題をグローバルな観点から解決するための人材を育成することが望まれる。ESDは、こうした地球規模での将来の人類、地球上の生物、環境を考え、持続可能な社会を構築するための教育として提唱された。さらに、SDGs(Sustainable Development Goals; 持続可能な開発目標)が2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)で達成されなかったことを改善、克服するために策定され、持続可能な開発として世界中で注目されている。日本では、ESDを受ける形でSDGsへと進んだ。本研究でもESD,SDGsと社会科および理科の

カリキュラムとの関連が論究されている。このように、日本では、ESD を受ける形で SDGs へと進んだ。

ESD や SDGs が日本の教育に与えた影響は大きく、例えば社会科地理的分野や地理歴史科地理では、現代世界の理解の重点がおかれ、知識・技能といったコンテンツに基づいてカリキュラムが編成されていたが、思考などの能力といったコンペテンシーへと重点が移行し、未来志向へと変わっていった。こうしたなかで、持続可能な社会に向けてのカリキュラムに向けた研究は、今後の教育のためには大きな意義をもつ。持続可能な社会にむけてのカリキュラムづくりは、文部科学省や教育委員会だけがおこなうのではなく、カリキュラムマネジメントの下、学校単位でも教員レベルでも求められるようになってきた。それは、社会科（地理歴史科、公民科）、理科などの枠組みはもとより、教科融合の観点も必要とされるようになってきた。本研究では、持続可能な社会に向けてのカリキュラムを、社会科（地理、歴史、公民）のみならず、理科のそれぞれおよびそれらの融合も含めたカリキュラムについての考察を行うこととした。そのうえで、日本を中心とした各地域を結び付ける「持続可能な社会」のグローバルなカリキュラムが相互に採用できるようなネットワークを構築する。つまり、日本が発信するグローバルなカリキュラムのネットワークを構築するのである。

3. 研究の方法

まずは、テーマの課題について検討する。大きくは、アメリカ、ヨーロッパ、アジア、オセアニアに研究グループを分け、それぞれの地域と日本とにかかわるテーマを検討する。さらには、理論的な研究、実践的研究を担当する研究に分け、研究分担者はそれぞれの研究を分担する。それらの分析結果に基づき、国内外の学校での実践をおこない、その理論、実践での研究成果を検証する。また、海外での共同調査を通して、グローバルに実施できるカリキュラムを考案し、さらには実施することで、各地域を結び付ける「持続可能な社会」のグローバルなカリキュラムが相互に採用できるようなネットワークを構築する。つまり、日本が発信するグローバルなカリキュラムのネットワークを構築する。より具体的な研究の進め方は、以下ようになる。持続可能な社会に向けてのグローバルな社会科（地理歴史科・公民科）、理科およびその融合カリキュラムについて、理論、実践、海外調査の各側面からアプローチする。それに基づいてカリキュラムの開発をめざし、海外での学校で授業実践することで、それらの国々とネットワークをつくり、グローバルなカリキュラムでの授業を実施し、持続的な情報交換を可能とし、グローバルな観点でのカリキュラムの改善、授業改善を可能にする。

4. 研究成果

本研究の成果は、井田仁康編（2021）『持続可能な社会に向けての教育カリキュラム 地理歴史科・公民科・社会科・理科・融合』古今書院にまとめ出版した。研究成果を学会発表や論文として公表するだけでなく、社会一般にも問い、かつ共有できるようにした。本書では、全ての研究分担者が執筆し、本研究プロジェクトの総まとめとなった。本書は、理論編、実践編、海外共同調査編の3編からなる。理論編では「SDGs に基づくカリキュラム開発」「立山黒部ジオパークを題材とした理科と社会からの授業と SDGs」「社会と自然をつなぐ「環境地理」教育の創成と ESD への展開」「初等教育における教科横断によるグローバル・シティズンシップ育成」「ESD/SDGs のための自然地理学習」「ポルトガルの ESD における教科学習の役割と課題」「米国の ESD と地理教育」「社会的分野における持続可能な地域社会づくりに向けたカリキュラム」「人類の時代、人新世における地理教育」「SDGs「ジェンダー平等」の目標に向かう歴史の人物学習」「持続可能な社会の形成のための歴史学習」「教科の言説から捉えた ESD の展開と可能性」「日本の中等理科教育におけるネイチャーライティングを導入した環境倫理教育の検討」といったタイトルでの研究成果が論じられている。実践編では「文理統合型カリキュラムによる SDGs × ESD の実践的研究の実態」「社会科・理科において ESD 教育を担う小学校教員養成の試行的取り組み」「学校統廃合と地域学習のあり方」「地域活性化に向けて地域の魅力を考える地理 ESD の授業」「ESD を取り入れたタイでの相互授業」から構成される。特にタイでの授業は、4人の日本の中・高校の教員がタイの学校で、研究代表者・分担者と協議し考案した ESD に関する地理の授業を行い、タイの先生による授業を参観したうえで、タイの教員と討論をして共通カリキュラムの方向性を見いだした。両者の授業後に、授業担当教員だけでなく、日本およびタイでの教育学関係の研究者もふまえて授業研究会を設け、グローバルなカリキュラムとしての検討をするとともに、授業研究会を通しての持続可能なネットワークを構築した。本研究で明らかとなった ESD の共通カリキュラムの骨子以下の2点である。

SDGs の達成をめざす探究型学習のカリキュラム。タイでは探究のプロセスが生徒に身につけ、討論などを通して課題の解決をめざす授業が展開しやすいが、地理の授業として ESD や SDGs をめざす未来志向の学習とすることが課題で、それは日本でもこれから求められる学習となる。

基礎的知識や技能を組み込んだカリキュラムの構築。思考をするためには、知識や技能を活用する。そのため、意義のある知識や技能を習得されていなければならない。その知識や技能を、学年があがることでどのように習得させていくのか、探究のプロセスから新たな知識や技能を習得させ、それを次の段階の探究のプロセスで活用させるようにして、スパイラルな探究のプロセスに基づくカリキュラムが、共通カリキュラムのポイントとなる。

海外共同調査編は、カザフスタンおよびウズベキスタンの海外共同調査の成果であり、「アラ

ル海の現状」「現地の学校におけるアラル海に関する教育」「アラル海の教材化の視点」「地理総合」におけるアラル海問題の教材化」としてまとめられている。海外共同調査では、カザフスタンおよびウズベキスタンの研究者とともにアラル海を調査し、周辺学校でのアラル海の学習の現状および子どもの認識を調査し、日本でも注目されているアラル海の縮小に関して、両国が共通認識すべき事項に基づきながら ESD としてのグローバルな観点でのカリキュラムの改善を図るとともに、具体的な教材化を図った。この調査などにより、カザフスタンおよびウズベキスタンとの持続可能なネットワークが構築できたといえる。

このように理論編、実践編、海外共同調査編を通して、純粋な研究という側面と、新学習指導要領でもうたわれている学校、教員レベルでのカリキュラムマネジメントに貢献できる実践研究ともいべき実践的研究という側面もあわせもっている。そもそも教育の研究は、研究と教育とを明瞭に分けられるものではないが、本研究は、理論的研究とも実践的研究としても意義があり、かつ地理などの単独の科目だけでなく、理科との融合的内容を含めた、今求められる ESD、SDGs を発展させるものである。このような、理論、実践、海外共同調査による研究成果を総括した、本研究の成果として、社会科（地理歴史科、公民科）理科、そしてグローバルで融合的なカリキュラムの開発の2つのポイントを指摘することができる。1点目は、学習プロセスを明確にし、コンテンツとコンペテンシーのバランスを図ることである。欧米を中心に世界ではコンペテンシー重視のカリキュラムが主流になった。2017年および2018年の告示の学習指導要領は、コンペテンシーにシフトしたと言っても、コンテンツの重要性がなくなったわけではなく、むしろバランスをとっているといえる。本研究で提示するカリキュラムのポイントは、このような日本の学習指導要領の概念に近くなる（図1）。コンペテンシー重視のカリキュラムの欧米では、コンテンツが希薄になり、十分にコンペテンシー重視のカリキュラムが機能しないこともある。そのため、コンペテンシーを育成できるコンテンツの充実が課題となつてこよう。したがってコンペテンシーの重視が先行してきた欧米でも、今後は、本研究が主張するコンペテンシーとコンテンツのバランスのとれたカリキュラムをめざすことになる。このようなカリキュラムは、世界的にグローバルに必要とされるカリキュラムである。

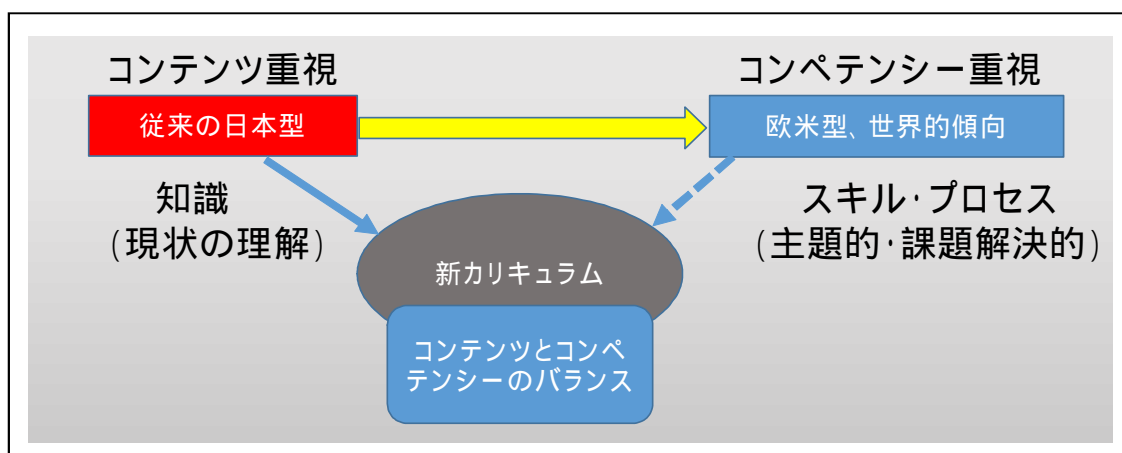


図1 コンテンツとコンペテンシーとのバランスのとれたカリキュラム
(井田編(2021)p.312)

カリキュラム開発の第2のポイントは、学年ごとの学習内容をスパイラルに示し、その際に教科間、特に社会科と理科との枠をはずし、教科間の知識・スキルについて教科をこえて活用することである。その際に、社会科（地理歴史科、公民科）と理科との融合カリキュラムとして作成するという方策だけでなく、例えば高校の地理において、中学校までの社会科や理科の学習内容を踏まえ、社会科および理科の知識やスキルを高校の地理で活用し、融合するような現実的に実施しやすいカリキュラムを作成するという方策もある（図2）。いずれにせよ、縦割りに教科の学習を進めるだけでなく、意識的にそれまでの教科をこえた学習内容を取り込み、融合的なカリキュラムを作成することが、社会に貢献できる人間を育成するには必要なことである。

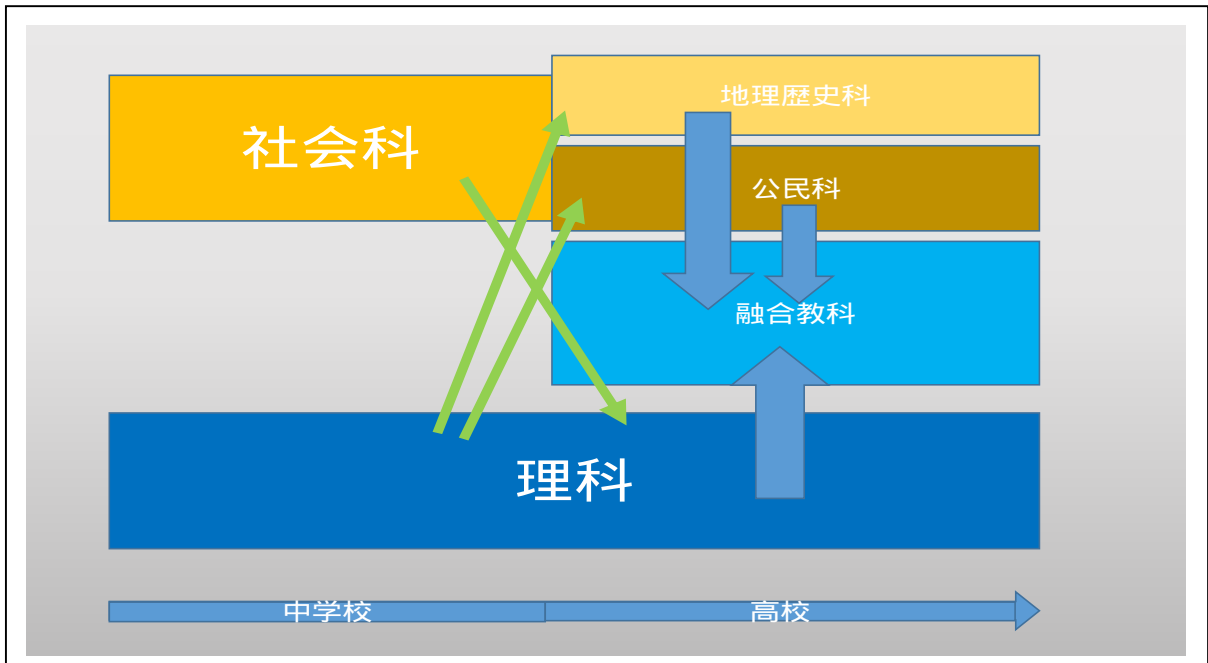


図2 教科の枠をこえた融合カリキュラムと教科の枠を保つ融合カリキュラムの概念図
(井田編(2021)p.313)

なお、こうしたカリキュラムの構築は、井田・唐木・國分の研究代表および分担者が担当する大学院の教育にも反映され、大学院生たちがESDをテーマにした授業を開発し、協力校で授業を実施し、教育にも貢献している。具体的な授業テーマは表1に示される。

表1 ESDにもとづく実験授業のテーマ(筑波大学教育研究科社会科コース 2019年度)

教科・科目など	授業テーマ	協力学校種
社会科地理的分野	フィールドワークを用いた地域学習 大子漆に着目して	公立中学校
地理歴史科世界史	記憶されたルターと忘れられたルター 宗教改革 300周年を事例に	公立高校
地理歴史科日本史	中世前期の貨幣について考える	公立高校
地理歴史科地理	「環境と開発」のあり方について考える インドのガンジス川を事例に	附属視覚特別支援学校
公民科	『他者』とどう向き合い か 共生の際に求められる態度を吟味する	附属中学校

以上は2019年度のものあげたが、2017年度から2020年度の成果授業の詳細は、『研究報告書「持続可能な社会」に基づく社会科(地理歴史科・公民科)授業の構想 高度な授業力育成を目指す筑波大学教育研究科社会科コースの取り組み』(研究代表者:井田仁康、2018、2019、2020、2021)にまとめている。

このように本研究は、理論、実践、海外共同調査を経て、それぞれの研究成果およびそれらを総括したESDにかかわるカリキュラムの構築、海外との学校や授業によるネットワークの構築、およびESDにかかわる中等学校の授業実践について、学術的だけでなく授業実践にも貢献したといえる。

文献:

井田仁康(2011): 持続可能な社会の形成のための社会科・地理歴史科 高等学校地理歴史科における融合科目の提案 - . 社会科教育研究、No.113、pp.1-8 .
 井田仁康(2015): 社会科における環境教育 - 価値判断・意思決定、ESD, Future earth, 21世紀型能力 . 日本文教出版編『教師用指導書小学校社会総論』日本文教出版、pp.164-173.
 井田仁康編(2021): 『持続可能な社会に向けての教育カリキュラム』 地理歴史科・公民科・社会科・理科・融合』古今書院
 中山修一・和田文雄・湯浅清治編(2011): 『持続可能な社会と地理教育実践』古今書院 .

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計41件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 井田仁康	4. 巻 91
2. 論文標題 「地理総合」の方向性と防災教育の位置付け	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 482-485
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井田仁康	4. 巻 69
2. 論文標題 高等学校「地理探究」と東南アジア・オセアニア地誌学習	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新地理	6. 最初と最後の頁 69-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井田仁康	4. 巻 69
2. 論文標題 「地理総合」の設立－未来志向の地理教育へ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市計画	6. 最初と最後の頁 104-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井田仁康	4. 巻 24
2. 論文標題 「地理総合」とは何か.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 10-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KIM Hyunjin, Hokkaido University of Education, Japan, MUHI? Barbara, Osnovna ?ola Brezovica pri Ljubljani, Slovenia	4. 巻 11
2. 論文標題 A study of children's environmental awareness and discovery of hidden geographies based on the award-winning maps from the Asahikawa environmental map contest	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 European Journal of Geography	6. 最初と最後の頁 19-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.48088/ejg.h.kim.11.2.19.32	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本容子	4. 巻 44
2. 論文標題 理科教育におけるネイチャージャーナリングの活用の検討ーアメリカの初等・中等教育段階の環境教育辞令をもとにー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本科学教育学会年会論文集	6. 最初と最後の頁 527-530
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本隆太	4. 巻 2
2. 論文標題 大井川下流域の水防災教材の開発：「水にまつわる地域の歴史（大井川）」を事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 静岡大学地域創造教育研究	6. 最初と最後の頁 31-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋本弘章	4. 巻 14号
2. 論文標題 地理総合での学び タピオカドリンクから考えるESD	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 環境共生研究	6. 最初と最後の頁 65-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永田忠道	4. 巻 68
2. 論文標題 探究的・研究的な見方・考え方を働かせるヨーロッパ学習への期待	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新地理	6. 最初と最後の頁 81-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 國原幸一朗	4. 巻 57
2. 論文標題 アメリカの社会科におけるESDの展開と課題－スタンダード・教科書・指導書の記述の関連性を通して－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 名古屋学院大学論集 人文・自然科学篇	6. 最初と最後の頁 37-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永田成文	4. 巻 32号
2. 論文標題 持続可能性に基づいたSDとしての地理的探究による中等地理授業－オーストラリアNSW州の環境単元を手がかりに－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会系教科教育学研究	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉水裕也, 澁谷友和, 佐藤克士, 曾川剛志	4. 巻 55
2. 論文標題 社会科におけるまちづくり学習の研究動向と展望論文	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 兵庫教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池 俊介	4. 巻 67
2. 論文標題 コンピテンシー重視の教育改革と地理教育の課題 - ポルトガルの経験に学ぶ -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新地理	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池 俊介	4. 巻 34
2. 論文標題 ポルトガルにおけるコンピテンシー重視の地理教育をめぐる近年の動向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院教育学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池俊介・齊藤亮次・山本隆太・吉田裕幸	4. 巻 34
2. 論文標題 地理教育におけるフィールドワークの類型化に関する試論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 早稲田教育評論	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 國分麻里	4. 巻 28・29 (合併)号
2. 論文標題 学校百年史から見る朝鮮人児童の創氏改名	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア教育史研究	6. 最初と最後の頁 43-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 國分麻里	4. 巻 63
2. 論文標題 朝鮮人女学生とか妙ー1940～1945年のトンネ高等女学校を中心としてー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本の教育史学	6. 最初と最後の頁 75-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永田忠道	4. 巻 49
2. 論文標題 地理的分野の学習評価で期待される深い学びへと導く振り返り - 「学習をふりかえろう」の効果的な活用への期待 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中学校社会科のしおり	6. 最初と最後の頁 9-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井田仁康 秋本弘章	4. 巻 65
2. 論文標題 タイ・コンケン大学附属学校訪問記 第1回	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 38-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内裕一	4. 巻 67
2. 論文標題 地理教育における地域学習の位置 - 子どもたちの地域学習体験からの逆照射 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新地理	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒井正剛・志村喬・吉水裕也	4. 巻 64
2. 論文標題 アラル海の教材化に向けて - ウズベキスタンからとらえたアラル海	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 84-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井田仁康・伊藤悟	4. 巻 26
2. 論文標題 地理教育におけるAR (拡張現実) 技術の有用性 - 位置情報型ARに焦点をあてて -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 GIS - 理論と応用	6. 最初と最後の頁 23-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井田仁康	4. 巻 66
2. 論文標題 新設科目「地理探究」と交通・通信、観光	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新地理	6. 最初と最後の頁 59-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井田仁康	4. 巻 23
2. 論文標題 国際地理オリンピックにおける地球環境における出題傾向	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 36-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井田仁康・國原幸一朗・永田成文	4. 巻 64(2)
2. 論文標題 ウズベキス タンからとらえたアラル海(第1回)ウズベキスタンへ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 66-73
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池俊介	4. 巻 13
2. 論文標題 ポルトガルの農村ツーリズム	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 E-journal-GEO	6. 最初と最後の頁 359-366
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 タスタンベコワ・クアニシ、秋本洋子、荒井正剛	4. 巻 64(4)
2. 論文標題 ウズベキスタンの教育・文化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 74-81
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本隆太, 鈴木雄介, 新名阿津子	4. 巻 63
2. 論文標題 ジオパークで「持続可能な地域づくり」を学ぶ: 地理オリンピック強化研修会	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅川俊夫・秋本弘章	4. 巻 64(3)
2. 論文標題 ウズベキスタンからとらえたアラル海 西アラル海を見る。	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 4-11
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内裕一	4. 巻 64
2. 論文標題 「地理総合」を支える教員研修の必要性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済地理学年報	6. 最初と最後の頁 79-85
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤直之	4. 巻 714
2. 論文標題 公的分野との連携を意図した地理授業の創造	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会科教育	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 國原幸一朗	4. 巻 3
2. 論文標題 ESDからみたアラル海の問題とイスラム世界 ウズベキスタンの訪問を通して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 名古屋学院大学教職センター年報	6. 最初と最後の頁 23-44
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村井大介	4. 巻 29
2. 論文標題 公民科の科目編成の変遷から捉えた新科目「公共」の特徴-学習指導要領の計量テキスト分析を通して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 静岡大学教育実践総合センター紀要	6. 最初と最後の頁 72-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 永田成文	4. 巻 70
2. 論文標題 地域の課題を外国に伝えるESDとしての総合学習の効果 - 社会参加の高まりに着目してー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 三重大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 373-380
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永田忠道	4. 巻 6
2. 論文標題 論理と感性の包摂による創造主義の社会科 - 社会科授業における共感的理解と科学的説明の越境 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会科授業研究(韓国社会科授業学会)	6. 最初と最後の頁 135-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西宏治	4. 巻 53
2. 論文標題 富山市のコンパクトなまちづくりと現状	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 農業法研究	6. 最初と最後の頁 35-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西宏治	4. 巻 84
2. 論文標題 家族が成長する環境地図づくり	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 自然と社会 - 北陸 -	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内裕一	4. 巻 65
2. 論文標題 地域づくり・社会参画を見据えた授業づくりの視点	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 新地理	6. 最初と最後の頁 77-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内裕一	4. 巻 No.131
2. 論文標題 「地域再生」を担う人材育成をめざす社会科授業 - 学校と地域を結びくみづくりからの提言 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会科教育研究	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井田仁康	4. 巻 65
2. 論文標題 「地理総合」方向性とGIS	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 新地理	6. 最初と最後の頁 83-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井田仁康	4. 巻 88
2. 論文標題 地理教育を支えるための体制の整備	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 171-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計43件 (うち招待講演 16件 / うち国際学会 12件)

1. 発表者名 Ida Yoshiyasu
2. 発表標題 Resilience for global citizenship; disaster prevention and global education
3. 学会等名 SEAMEO-The university of Tsukuba Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井田仁康
2. 発表標題 高等学校地理歴史科「地理総合」における地球教育
3. 学会等名 日本地球惑星連合2021年大会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井田仁康
2. 発表標題 災害教育を地理教育へどのように反映させるか
3. 学会等名 日本地理学会2021年春季学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 永田成文
2. 発表標題 生活文化の多様性からみた東南アジア・オセアニアの地理授業
3. 学会等名 日本地理学会2020年秋季学術大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井田仁康
2. 発表標題 高校地理探究と東南アジア・オセアニア地誌学習
3. 学会等名 日本地理学会2020年秋季学術大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉水裕也
2. 発表標題 中学校社会科地理の分野と高等学校『地理総合』
3. 学会等名 歴史地理学会例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉水裕也
2. 発表標題 日本中學校社会教科書探究式教材と教學設計
3. 学会等名 歴史地理学会例会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荒井正剛
2. 発表標題 中高連携を踏まえた「アフリカ州」の学習指導のあり方ーイギリスでの学習指導を参考にー
3. 学会等名 日本社会科教育学会全国研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤井大亮
2. 発表標題 持続可能な社会の形成のための歴史学習
3. 学会等名 日本教材学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本容子
2. 発表標題 ネイチャーライティングを導入した自然観察活動の検討ー生物教育における生徒の環境倫理意識の向上を目指してー
3. 学会等名 日本理科教育学会第70回全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ida Yoshiyasu
2. 発表標題 The International Geography Olympiad and geography education in Japan
3. 学会等名 JpGU Joint Meeting 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ida Yoshiyasu
2. 発表標題 Hoe to protect yourself from disasters
3. 学会等名 The 3rd JEARSS-ISSA International Forum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ida Yoshiyasu
2. 発表標題 Transition of Description in Geography Textbook as far Natural Disaster,Japan.
3. 学会等名 2nd International Congress on Geographical Education, (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉水裕也
2. 発表標題 中学校社会科地理の分野で育成すべき学力-PBL的単元構成による社会認識と思考力育成-
3. 学会等名 人文地理学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kim Hyunjin, Muhic Barbara
2. 発表標題 Children's Discovery of Hidden Geographies through Environmental Mapping Activity
3. 学会等名 EUROGEO 2019 Annual Conference in Ljubljana, Slovenia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池 俊介
2. 発表標題 コンピテンシー重視の教育課程と地理教育の課題
3. 学会等名 人文地理学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田裕幸, 田中岳人, 山本隆太
2. 発表標題 地理と生物の教科横断的な学習からみる自然地理学習の課題
3. 学会等名 2019年度日本地理学会秋季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅川俊夫
2. 発表標題 アラル海はいま - 2016年カザフスタン・2018年ウズベキスタン調査から -
3. 学会等名 2019年埼玉県高等学校社会科研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒井正剛
2. 発表標題 「国際理解と国際協力」に関する内容の中学校地理的分野と「地理総合」の接続・関係について
3. 学会等名 日本地理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永田 成文
2. 発表標題 世界遺産の顕著な普遍的価値への理解を深める地理ESD授業
3. 学会等名 2019年度日本地理教育学会第69回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤井大亮
2. 発表標題 歴史的な見方・考え方という観点からの教材の検討 歴史的意義に焦点をあてて
3. 学会等名 日本教材学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村井大介
2. 発表標題 新科目「公共」の学問知と教師の専門性 大学教育課程の参照基準から市民性教育と学問知の関係を探る
3. 学会等名 日本社会科教育学会 第69回全国研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤直之
2. 発表標題 汎用的な資質・能力の育成を担う地理授業-思考ツールの活用を通して-
3. 学会等名 2020年度日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 國分麻里
2. 発表標題 朝鮮人女学生と改名 - 1940～1945年のトンネ高等女学校を中心として -
3. 学会等名 教育史学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井田仁康
2. 発表標題 「深い学び」を生み出す授業づくり
3. 学会等名 第6回筑波大学附属小中高大連携社会科授業研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本容子
2. 発表標題 中学校理科における環境倫理の視点を導入した自然体験学習の実践的検討-ディープエコロジワークの実践を通して-
3. 学会等名 日本科学教育学会第43回年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ida Yoshiyasu
2. 発表標題 Characteristics of the geography curriculum in new course study in Japan
3. 学会等名 IGU-Commission on geographical education (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ida, Yoshiyasu
2. 発表標題 Issue of multicultural education in Japan
3. 学会等名 International Symposium of Multicultural and Education Quality Assurance in the International Perspective (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井田仁康
2. 発表標題 中学校社会地理的分野における防災教育のモデル教科書
3. 学会等名 全国社会科教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池俊介
2. 発表標題 コンピテンシー重視の地理教育の課題 - ポルトガルを事例に -
3. 学会等名 日本地理教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本隆太
2. 発表標題 ESD-SDGsの文脈におけるジオパーク教育の理論と実践
3. 学会等名 日本地理学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井田仁康
2. 発表標題 中高接続を踏まえた中学校地理的分野、高校地理実践の在り方
3. 学会等名 人文地理学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤直之
2. 発表標題 英国地理教科書における「探究学習」はいかに作られるか
3. 学会等名 日本地理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永田忠道
2. 発表標題 社会的な見方・考え方の全体構造 開かれた主権者・市民の発展的育成のために
3. 学会等名 日本社会科教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Koji OHNISHI
2. 発表標題 Learning compact city policy and ESD: a case study in Toyama city
3. 学会等名 IGU地理教育コミッション2018年大会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大西宏治
2. 発表標題 地理空間情報を活用したまちづくり - 富山市におけるスマートシティの取組と市民による活用の可能性 -
3. 学会等名 北陸地理空間フォーラム in 富山 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒井正剛
2. 発表標題 考えよう！アラル海と霞ヶ浦 共通教材の追究
3. 学会等名 日本国際理解教育学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hyunjin KIM, Yoshiyasu IDA, and Takashi SHIMURA
2. 発表標題 Japan's Geography Education at a Turning Point .
3. 学会等名 The 12th KCJ Joint (3rd Asian) Conference on GEOGRAPHY (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本隆太
2. 発表標題 ドイツの地理教育における天然資源の位置づけ 地学的内容との融合 .
3. 学会等名 日本社会科教育学会第67回全国研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoshiyasu IDA
2. 発表標題 Role of the Geography Education Research for New National Curriculum in Japan -for Compulsory Subject of Geography and History .
3. 学会等名 CGE Lisbon Symposium 2017, Lisbon University (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hyunjin Kim, Ken Kuribayashi, and Seisuke Sakai
2. 発表標題 Environmental Education through Children ' s Map Contest
3. 学会等名 The 8th Pacific Rim Conference on Education (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 井田仁康
2. 発表標題 学び続ける教師のために - 新時代の教育と教員免許状更新講習 -
3. 学会等名 平成29年度教員免許状更新講習シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井田仁康
2. 発表標題 地理教育の振興
3. 学会等名 日本地理学会2018年春季学術大会、公開シンポジウム「これからの地理学と日本地理学 「新ビジョンのめざすもの」
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 井田 仁康編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 326
3. 書名 持続可能な社会に向けての教育カリキュラム	

1. 著者名 井田仁康編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 165
3. 書名 「地理総合」の授業を創る	

1. 著者名 荒井 正剛、小林 春夫	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 208
3. 書名 イスラーム／ムスリムをどう教えるか	

1. 著者名 Himiyama Yukio, Satake Kenji, Oki Taikan (Eds.) (Yoshiyasu Ida)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 339 担当：309-320
3. 書名 Human Geoscience. (担当：Education for a Sustainable Society)	

1. 著者名 社会系教科教育学会編 (吉水裕也)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 343 担当部分: 114-123
3. 書名 社会系教科教育学研究のブレイクスルー : 理論と実践の往還をめざして	

1. 著者名 荒井正剛	4. 発行年 2019年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 150
3. 書名 地理授業づくり入門 中学校社会科での実践を基に	

1. 著者名 井田仁康 (碓井照子編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 208 (分担: pp.1-10)
3. 書名 「地理 総合」ではじまる地理教育 (「「地理総合」の内容とその特性」分担)	

1. 著者名 池俊介 (碓井照子編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 208 (分担: pp.121-132)
3. 書名 「地理総合」ではじまる地理教育 - 持続可能な社会づくりをめざして -	

1. 著者名 志村喬（碓井照子編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 208（分担：pp.57-67）
3. 書名 「地理総合」ではじまる地理教育 - 持続可能な社会づくりを目指して - （分担：「地理総合」と社会科教育）	

1. 著者名 池 俊介 ・ 鎌田和宏（日本社会科教育学会編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 225（分担：pp.140-149）
3. 書名 社会科教育と災害・防災学習 - 東日本大震災に社会科はどう向き合うか -	

1. 著者名 井田仁康（日本社会科教育学会編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 225（分担：pp.221-223）
3. 書名 『社会科 教育と災害・防災学習 - 東日本大震災に社会科はどう向き合うか - 』（分担：「あとがきー日本社会科教育学会としての役割 - 」）	

1. 著者名 山本隆太（加賀美雅彦編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 180（分担pp.10-17）
3. 書名 「ヨーロッパ」（分担：第2章 自然環境）	

1. 著者名 井田仁康 (長谷川直子編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版	5. 総ページ数 200 (担当頁pp.1-10)
3. 書名 「地理 総合」ではじまる地理教育 (「地理総合」の内容とその特性」分担)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	竹内 裕一 (takeuch hirokazu) (00216855)	千葉大学・教育学部・教授 (12501)	
研究分担者	大西 宏治 (ohnishi koji) (10324443)	富山大学・学術研究部人文科学系・教授 (13201)	
研究分担者	國分 麻里 (kokubu mari) (10566003)	筑波大学・人間系・准教授 (12102)	
研究分担者	金 ヒョン辰 (kim hyunjin) (10591860)	北海道教育大学・教育学部・准教授 (10102)	
研究分担者	伊藤 直之 (ito naoyuki) (20390453)	鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授 (16102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	池 俊介 (ike shunsuke) (30176078)	早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	唐木 清志 (karaki kiyoshi) (40273156)	筑波大学・人間系・教授 (12102)	
研究分担者	永田 成文 (nagata shigefumi) (40378279)	三重大学・教育学部・教授 (14101)	
研究分担者	山本 容子 (yamamoto yoko) (40738580)	筑波大学・人間系・助教 (12102)	
研究分担者	荒井 正剛 (arai masataka) (40795712)	東京学芸大学・教育学部・教授 (12604)	
研究分担者	吉水 裕也 (yoshimizu hiroya) (60367571)	兵庫教育大学・学校教育研究科・理事（副学長） (14503)	
研究分担者	藤井 大亮 (fujii daisuke) (60638807)	東海大学・課程資格教育センター・准教授 (32644)	
研究分担者	國原 幸一朗 (kunihara koichiro) (60757566)	名古屋学院大学・現代社会学部・准教授 (33912)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	志村 喬 (shimura takashi) (70345544)	上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授 (13103)	
研究分担者	浅川 俊夫 (askawa toshio) (70450153)	東北福祉大学・教育学部・准教授 (31304)	
研究分担者	大高 皇 (ohtaka tadasu) (70709261)	常磐大学・人間科学部・准教授 (32103)	
研究分担者	山本 隆太 (yamamoto ryuta) (80608836)	静岡大学・教職センター・特任准教授 (13801)	
研究分担者	村井 大介 (murai daisuke) (80779645)	静岡大学・教育学部・講師 (13801)	
研究分担者	永田 忠道 (nagata tadamichi) (90312199)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授 (15401)	
研究分担者	秋本 弘章 (akimoto hiroaki) (90327015)	獨協大学・経済学部・教授 (32406)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 日韓地理教育シンポジウム「持続可能な社会へ 向けての社会科教育・地理教育」	開催年 2019年～2019年
---	--------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------